

『恋人はスナイパー ~ Grand-Finale ~』

サブタイトル：“1212[TWO=TWELVE]”の日本テロ計画を阻止せよ!!

【ストーリー(細かい脚本は君塚氏の領分ですから...)】

注) 役どころの()内の役者名は、**本命のみ**記載しております。

[N.Eのストーリー総括が入って...]

[前編(TV・2時間ドラマを想定)]

李波児(中村俊介)の消息不明から1年が経った…。彼はひたすら北上し、新潟港を目指していた。そこに“1212(TWO=TWELVE)”の刺客が送り込まれた。多勢に無勢、さらに能力もそこそこ。波児はこの危機をどう乗り越えるのか?

一方、国際部長の船木健一(田辺誠一)や、国際二課長の相沢大輔(宮迫博之)をはじめ警視庁の面々も、緊張の面持ちを隠せないままだった…。またしても、韓国人グループの500ウォン硬貨を使った詐欺事件が発覚したのだ。彼らの摘発には成功した…。しかし、国際二課捜査員・牧野恵美(平山あや)は現場を逃走する1人の男を発見、晴海埠頭まで追い詰めた。だが、気功術を駆使する彼の前に自らに恐怖感を感じる恵美…すると、男は構えを外して言った。

「…味方や!」

流暢な関西弁…男の正体は、大阪府警刑事部国際課のキャリア組警部・光山鐘範(千原浩史)である。彼の口から衝撃的な一言が放たれた。

「奴が、再び日本で仕事を始めおった。…知っとると思うが、大阪で要人の連続狙撃事件を起こしたんや。俺ら大阪府警も、あんたらと同じく血眼になって、李波児の行方を探しとる。“1212(TWO=TWELVE)”のやってることは、もはやテロも同然や!一刻の猶予もないで!」

光山の言葉に、言葉を失った恵美。波児への数々の想いが今ここで蘇ってきた…

光山の東京滞在期間中に、なんとしても波児の行方を探りたい…恵美は光山と組んで、捜査に乗り出した。しかし、光山のやり方はかなりの強引さで、ついに恵美は

「ここは大阪じゃないの!警視庁には警視庁のやり方があります!それに従ってください!」

「俺が親の敵でもある奴を捕まえる!…そして俺の手で殺す!」

光山の両親は“1212(TWO=TWELVE)”に殺されたという…血も涙もない悪魔のような

存在だ、と。恵美にはそれが哀しく感じてしまった。

その日の帰り道に久しぶりに下北沢の実家に帰り、父・源二(内藤剛志)と束の間の再会をしたが、彼女の顔は浮かない...

次の日...東京で波児の手口と全く同様の狙撃事件が起きたが、一方的に波児の仕業とすることに、恵美は疑問が絶えなかった。

一方、北を目指して逃亡中の波児は、ようやく新潟港に辿り着いた。

しばらく船を眺めていると、そこに、突如として Dr. 橋本(北村一輝)が現れた。橋本は自らの出自を語り始めた...すると、彼の口からとんでもない計画が波児に言い渡された。

「アジアを軸に、イラクやイラン・北朝鮮、そして米英も何もかも関係なく、世界のすべての国を俺たち“1212(TWO=TWELVE)”の手で掌握する。そして、アジア発の世界帝国を築くのだ!その重要な拠点こそ...ここ、日本だ」

そう、橋本は復讐の対象をすでに全世界に向けていたのだ!!豪州・欧州・南北米大陸・中東ほか、殆ど各地のテロリスト集団を心酔させて、“1212(TWO=TWELVE)”の形態を、『テロリスト集団』に変えつつあった。

「そこでだ。今から2週間の猶予をお前にやる。組織に戻ってくるというのであれば、今までのことは全て水に流して待遇もそのままにしてやる。もし、“戻らない”などと愚かな答えを出すとしたら...。答えは二者択一だ」

たったの2週間...それまでに何とかしないと日本が危ない!!波児の腹づもりはすでに固まっていた。

「あんたに悪いが、俺はもう組織には帰らない。母さん(=水沢八重[かたせ梨乃])には、誰にも手出しはさせない!!」

波児や恵美たちはそんなことを露知らず、韓国・ソウルに呼び出された2人がいた。“1212(TWO=TWELVE)”『四天王』の高行秀(成宮寛貴)と黄麗仙(大谷みつほ)である。橋本は彼ら2人を、日本に送り込むことにしたのだ。

「東京?...フッ、ボスの命令をたった今、俺が受けた。...まず陥れるのは、ここだ」

橋本は日本地図を取り出し、なんと!京都・大阪を指さした。なぜか?不測の事態に備えて、いつでもテロを起こせるようにさせるためだ。

光山が大阪に帰るその日、大阪府警や連続狙撃事件の起きた各都道府県警察と合同捜査で行うほうがいいとして、警視庁から1人だけ自身と一緒に大阪に同行させてほしいと願い出た。相沢は、恵美を連れて行くことをその場で決めた。

...長い走行の末、恵美と光山は大阪に着いた。しばらく大阪市内をうろついている

と一報が入ってきた。南港の木材置場の近くで、波児の潜伏先を見つけたという。

木材置場に入っていった2人...すると、ヌンチャクを持った1人の男(蛭原徹)が現れた。男は、ヌンチャクなしでは2人の敵ではなかった。一安心する恵美に、後から銃口が!その後には...なんと光山が!!恵美の意識がなぜか遠のく...

目を覚ました恵美は、大阪南港・フェリーターミナルに停泊していた船の上にいる...。大阪府警は所轄の住之江署をはじめとして、本部もまた突入部隊を送り込むも、膠着状態が長時間にわたっていた。業を煮やした健一と相沢は、府警本部に警視庁特殊部隊・SATの大阪派遣を要請した。利権にしがみついた府警側が、この要請を簡単に了承するわけがない。

「面子がなんだとか、俺には関係ない!部下の命が大事なんだ!!身内がそうであっても、お前らは牧野と同じことがするのか!!」

相沢はついに激怒した。船木と共に大阪へと急いだ!!ヘリコプターで大阪に到着するも、発生から半日以上経ってもなお、依然動けない状態が続く。

ついに府警側が動いた!突入部隊を配備させ、狙撃の体制を整えたのだ。だが、船が揺れている上に直線距離で150m。現場慣れしていない彼らにすれば、非常に困難だ。一度、狙撃を試みるも失敗した。ますます焦る船木と相沢。

すると、狙撃ポイントに波児が!!突入部隊の代わりに狙撃を行い、見事に命中させた。2度目の狙撃が波児の業だということはもはや自明であった。

「なぜだ...。わからん...」

船木・相沢は恵美を安全な場所に運んだ。そこに...

「目を覚ましたようやな...李波児」

波児の前に現れたサングラスの男...なんと光山ではないか!...彼の正体は、『1212(TWO=TWELVE)“四天王”』の1人・朴鐘範だったのだ!指令を受けて、先発隊として日本に送り込まれていたのである。実際に、大阪府警のデータはハッキングされており、怪しまれることはなかった。そして船木・相沢・恵美の3人にも、『1212(TWO=TWELVE)“四天王”』の高行秀・黄麗仙の2人を仕向けられたのだ!

「会いたかったよ...李波児。...“1212(TWO=TWELVE)”には、ドクターが性欲に不自由しないようにって、女のスナイパーを用意しとったやないか。ドクターの命令や...あんたをソウルに連れ戻しにきた」

朴の怒涛の波状攻撃!!四天王の登場により、“1212(TWO=TWELVE)”は本気で『日本テロ計画』を実行に移すことになる...。[前編終了。後編へ...]

[後編(映画を想定)]

李波児(中村俊介)は、自身が捕まる恐れから、大阪からまた姿を消した…。

恵美(平山あや)の疲弊を考えて、その日は大阪に留まることにした。船木(田辺誠一)・相沢(宮迫博之)は恵美に東京に戻るように説得するも、一向に大阪に留まる意志を崩さない。業を煮やした相沢は、むりやり東京に連れ帰った。

東京に戻るも憂鬱感がとれない恵美。

「これは、お前たちや『日本』という国に対する“宣戦布告”ととらえろ!」

『1212(TWO=TWELVE)』“四天王”の高行秀(成宮寛貴)・黄麗仙(大谷みつほ)の言葉が忘れられない…焦る中で、突如携帯が鳴った。電話の主は、彼女が『師匠』とする警察学校の武道教官・篠田勝雄(堀部圭亮)である。

恵美は電話を受けて早速、警察学校の武道場に寄った。

「お前、大阪で相当ひどい目にあったらしいじゃないか。…相沢や船木から、全てを聞いている」

すると、きなこ(水野美紀)が道場に入ってきた。彼女も篠田に呼び出されたわけであり、意味もわからぬまま、恵美はきなここと拳法で闘うことになる。かつて、恵美はきなこを圧倒させたが、今回はきなこが優勢に試合を運ぶ。防戦一方の恵美…ついにきなこの技が決まる!

「これでわかったか…今のまま、お前が大阪に残って、“1212(TWO=TWELVE)”にたった1人で戦いを挑んで、勝てると思うのか?...え!」

倒れたまま、グッと篠田を睨み続ける恵美。さらに篠田は、

「認めたくないなら、俺と勝負してみるか?...今のお前じゃ、王凱歌にも勝てんぞ!!...それが、何を意味するかわかるだろ!...わからないというのなら、俺が教えてやる。『お前の死体が、大阪湾に浮かぶ』ってことだ。…円道寺に勝つまで、また己に打ち勝つまでここから帰さん!いいな!」

その日は深夜まで、武道場が静まることはなかった…。

翌日、警視庁国際二課宛に一通の封書が届いた。中には1本のビデオテープが!!

ビデオをつけると、Dr.橋本(北村一輝)が玉座に座り、淡々と話を進めた。

「ボスが言っていた…このビデオは、我々から日本という国へ向けた宣戦布告だ。残された期限はあと1週間…それまでに何らかの動きがなければ…、世界各地に最新型ミサイルがとんでくるぞ!フハハハ!」

あと1週間…時間はない!!恵美は、自ら殉職する覚悟をもって闘いに身を投じることになる…。船木・相沢もそれを悟っていたのか、大阪への出勤を命じた。

波児は、神戸にいた…。

神戸もまた、“1212(TWO=TWELVE)”のメンバーがうようよしており、また兵庫県警の厳戒体制も彼にはうっとおしいものであった…。

波児が裏地を通っていると、謎の女が現れた!格闘技も相当に長けている…すると、「本気で闘ってどないするん?」

謎の女は、警察手帳を見せた…馬場紀子(佐藤江梨子)との手荒い出会いである。

「ホンマやったら、あんたを県警に突き出さなあかんけど、事情が事情や。テロ阻止も命令なんでな…あんたが、おのとおらんのとでは話が違う。あんた、組織に戻るつもりないんやろ?...やったら決まりや。あと6日、グズグズしとる暇ないし」

やり方がかなり荒っぽいが、波児に味方がついたことは事実のようだ。内心は安堵した波児…。すると、刺客が再び現れた!...2人が苦戦している中、そこに恵美が現れ、2人と慌ただしくも合流した!

こうなれば形勢逆転。3人は刺客を次々と倒し、一枚の紙切れをとった…。そこには、姫路城の写真が!姫路城にミサイルを打ち込まれたら、たまったものじゃない!車を強引に借りて、いざ姫路へ!

姫路城に辿り着いた3人は早速、大手門に向かった。…すると、そこに現れたのはあのヌンチャク使い(蛭原徹)だったのだ。少しは学習したらしく、腕も立っている…しかし、3人の前にあっさりと倒される。すると、またしても一枚の紙切れが!...今度は何かの暗号らしい。暗号は“1212(TWO=TWELVE)”内でよく使われるものらしく、波児が暗号を解析した。すると、そこに出てきたのは『玉津興業』という名の暴力団組織である。彼らは、かつて東京・大阪で暴れまわっていたのだが、警察の暴力団対策により広島に移って、闇社会で活動をしているという。恵美も、相沢から存在を何度か聞かされた記憶がある。

「広島に行けば、何か“1212(TWO=TWELVE)”の手がかりが掴めるかも!」

3人は、車で広島へと急いだ…逃げ!残された時間は、あと5日!!

広島市内・玉津興業の事務所…組長(川田広樹)がいつも通り腰掛けると、彼を尾行していた広島県警本部国際部の刑事・湯川万理(小池栄子)の姿が!玉津興業は、“1212(TWO=TWELVE)”のメンバー向けに情報提供と武器密輸をして、その金で儲けを得ているのだ。しかし、その確固たる証拠もないうちは、リスクを伴うが事務所に忍び込むしかなかった。組長の銃撃に対し、たった1本の木刀で闘う万理。剣道のスペシャリストはいえ、銃撃となるとうかつに近づけない。そこに、波児・恵美・紀子の3人が組長室に入ってきた。…組長を脅しに近いながらも、韓国のアジトを探り出した。ここから韓国へは、下関港から出るフェリーに乗らなくてはならない。しかも、

出航まであと6時間...果たして間に合うのか？

4人は辛うじて下関港に着き、フェリーに乗り込むことに成功した。いよいよ、“1212(TWO=TWELVE)”との決戦に挑む!!4人はまるで運命めいたものがあるかもしれない...。フェリー上でも、ヌンチャク使いをはじめとして、次々と刺客たちが現れ、激戦を繰り返す!!

一方、相沢が広島に現れた。秘密裏に、玉津興業を探った結果である。組長は彼の厄介になっており、憎しみは半端ではない。組長は相沢に対して、なぜか余裕じみた笑顔を終始見せていた...。相沢は、帰る際もそのことが気掛かりで仕方がなかった。

ついに韓国に降り立った4人...いざソウルへ!!

ソウルに着き、市警当局の極秘資料へのハッキングより“1212(TWO=TWELVE)”のアジトに辿り着いた!!

中に入っていくと、そこに朴鐘範(千原浩史)・高行秀・黄麗仙の3人が!!

「約束の日の前に現れたとは...遅いとはいえ、戻ってくるなら大歓迎だ。母親の命が惜しくないのか？」

卑劣にも、事前に八重(かたせ梨乃)をアジトに捕えていたのだ!!4人は、怒りの表情を一気に見せた!!

末端メンバーを倒し、いよいよ四天王との決戦が切って落とされた。波児は、一目散にボスの部屋へ向かう!!女性最強刑事3人vs朴鐘範・高行秀・黄麗仙の対決は膠着状態が続き、一進一退の状況であった。次第に体力も落ちていく...

波児はついに、ボスの部屋を開けた!!玉座に近づくと、そこにはなんとDr.橋本がいたのだ!...そう、彼こそが“1212(TWO=TWELVE)”のボスだったのだ!

「やっぱり、お前がボスか...Dr.橋本!許さん...」

波児は、全力で橋本に立ち向かう!!テロリストとの、史上最強の全面对決がついに幕を開けた!!

四天王を辛うじて撃破して、波児の加勢に向かう恵美・万理・紀子。すると、大きな地響きが!!苦し紛れの橋本が、ついにアジトの爆破をカウントさせたのだ!!さらに、それは最新型ミサイルを各地に発射させるカウントダウンでもあるのだ!!...その時間は、わずかに1時間。それまでに橋本を倒し、起爆発射装置を止めさせないと、世界は滅亡する!!

李波児・牧野恵美・湯川万理、そして馬場紀子。この4人に全世界の未来は託された!!...この闘いに勝利し、テロの恐怖から救ってくれ!!

【イメージキャスト】

私が推す、メインキャストのイメージだ!!

役どころ / 位置	本命	対抗	大穴
李波児	中村俊介 Shunsuke Nakamura	賀集利樹	伊藤英明
牧野恵美	平山あや Aya Hirayama	水野裕子	一戸奈未
相沢大輔	宮迫博之 Hiroyuki Miyasako	該当なし	
水沢八重	かたせ梨乃 Rino Katase	加藤治子	岩下志麻
Dr. 橋本	北村一輝 Hazuki Hitamura	該当なし	
牧野源二	内藤剛志 Takashi Naitoh	斉藤洋介	渡辺正行

他に、こんなオリジナルメンバーを用意!!

光山鐘範(朴鐘範)...千原浩史
 高行秀 ...成宮寛貴
 黄麗仙 ...大谷みつほ
 玉津興業の組長 ...川田広樹
 湯川万理 ...小池栄子
 馬場紀子 ...佐藤江梨子

(他に)水野美紀, 田辺誠一, 蛭原徹, 堀部圭亮 ほか多数

【N.E を見ていない人へ...】

メインキャラ 6 人の設定は、エピソード 3 & N.E の希望シナリオに詳細を記載。

【G.F での新キャラクター】

“1212 (TWO=TWELVE)” の新たなるメンバー

光山鐘範[みつやま・かねのり](朴鐘範[パク・ジョンボム])

大阪府警刑事部国際課の刑事。大阪市生野区出身の在日韓国人 3 世。

大阪での要人連続狙撃事件発生、そして東京へなぜかやってくる。恵美と行動をとるようになる。大阪に帰るも...実は“1212(TWO=TWELVE)”の四天王の 1 人だったのだ!!この男の真実から、波児・恵美は“日本テロ計画”の阻止へ動くことになる...。少林寺拳法・テコンドーなど、格闘技の能力は並大抵ではない。

『ポルノスター』などの映画で好評をうけている、**千原兄弟・千原浩史**さんをイメージに置いた。

高行秀[コ・ヤンジュ]

“1212(TWO=TWELVE)”の四天王の 1 人。格闘技の能力は低い、3 人の中では最も狡賢い。Dr. 橋本が最も信頼している幹部である。

『ラヴァーズ・キス』などの映画や、ドラマ『ごくせん』『高校教師』で好評をうけている、**成宮寛貴**さんをイメージに置いた。

黄麗仙[ファン・リーシン]

“1212(TWO=TWELVE)”の四天王の 1 人。朴鐘範と愛人関係にある。もともとは中国・北京で活動し、十八番は鞭を使った必殺技。性格は、いたってクール。

『走れ! イチロー』や『GUN CRAZY 3』などの映画で好評をうけている、**大谷みつほ**さんをイメージに置いた。

その他の刺客

南上がり決死隊・蛭原徹さんを、大阪南港の木材置場・姫路城・下関港に現れるヌンチャク使いの役で考えている。他にも、波児をソウルに連れ戻すために送り込まれた末端メンバーがいる。

玉津興業の組長

国際二課課長・相沢大輔が、刑事課にいた頃に厄介になった暴力団の組長(当時は若頭)。会社組織を名乗り、“1212(TWO=TWELVE)”宛に武器を密輸している。

ガレッジセール・川田広樹さんをイメージに置いた。

兵庫・広島県警の助っ人女性刑事

湯川万理[ゆかわ・まり]

広島県警本部国際部配属の刑事だが、警察庁からの出向組である。剣道に長けていて、男勝りの性格。出身地は東京都江戸川区。

以上の役どころを考えて、**小池栄子**さんをイメージに置いた。

馬場紀子[ばば・のりこ]

兵庫県警本部国際部配属の刑事。湯川刑事とは体育大の同期であり、同期で警察庁に入庁した。古武道に長けていて、全国大会に出場し、優勝した経験をもつ。出身地は神戸市。

神戸在住経験のあることを活かし、**佐藤江梨子**さんをイメージに置いた。

篠田勝雄[しのだ・まさお]

元警視庁捜査二課刑事。現在は関東管区警察学校武道教官。きなこの師範(**中村浩二**)とは同期。牧野恵美のよき理解者・師範であり、彼女が唯一勝てなかった相手でもある。

「个性的か役どころか?」というのと、決してそうではないのだが、**元K2・堀部圭亮**さんをイメージに置いた。

【撮影地について】

今までの『恋スナ(現行エディションのほか、New Edition も含む)』は、主に東京・神奈川の2都県でしか撮影を行っていない。恋スナの“完全終幕”となると、思い切った地方ロケをしてみてもどうか?...対象は以下のとおりである。

大阪：南港周辺[含フェリーターミナル]，大阪城公園周辺，梅田・難波周辺

兵庫：神戸・姫路両市の中心地[姫路城は外せない...]

他には、**京都**・**広島**・**下関**・**韓国**[釜山・ソウル] など。

最後に、イメージキャストについてですが、選定理由の欄を見れば俺の考えていることは大体わかると思います。...が、補足で。

宮迫博之(国際二課長・相沢大輔)・**北村一輝**(“1212”の幹部・Dr.橋本)は**何があっても譲れない条件**である。

賀集利樹の場合は、**平山あや**・**水野裕子**・**一戸奈未**の誰をもってきても“『**体育王国**』ファミリー”となってしまう**危惧**がある。

李波児役に**永井大**を設定していたこともあったが、最近の活動は本当に忙しいらしく(今後公開予定の映画やVシネマの撮影が中心)、リストに載せなかった。

アクションは、歴代にない多さ(なんせ“**完全終幕**”だからねえ)。ストーリーには納得いかない箇所もあるとは思いますが、ご了承のほどを!